



野菜研究所ニュース

17 2017.2

あおもりの未来
技術でサポート

青森県産業技術センター 野菜研究所

< 掲載記事 >

留学生によるナガイモ食味評価

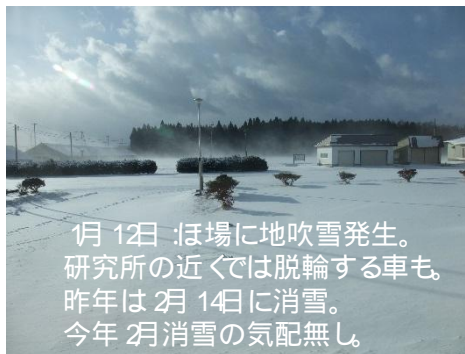
台風被害技術対策会議

種いも確保技術対策会議

生物くん蒸研修会

新任普及指導員研修

研究成果発表会



1月12日 ほ場に地吹雪発生。
研究所の近くでは脱輪する車も。
昨年は2月14日に消雪。
今年2月消雪の気配無し。

留学生によるナガイモ食味評価

10月7日、弘前大学で、中国からの留学生の皆様にご当研究所育成のナガイモを試食していただきました。ナガイモは、輸出の伸びが期待できる農産物の一つです。日本のように生で食べる習慣がないため、当日は、品種開発部員が、試料を加熱し、用意しました。9人の結果ですが、新系統の食味評価は上々でした。

今後の青森産ナガイモの輸出成長に期待しつつ、新系統の栽培法研究や食味の評価を続けます。今回の試みに協力いただいた留学生の皆様へ感謝します。



弘前大学で食味評価をする留学生のみなさん

ながいも台風被害技術対策会議

10月27日、当研究所において、農協、県関係機関、野菜研究所から約30名の参加を得て、台風被害対策の栽培技術研修会が開催されました。野菜研究所からは鎌田栽培部長が種いも不足が予想されたので、切りいもを種子利用する上での注意を説明しました。そのほか、今後の支援策、指導方法について話し合われました。



ながいも種いも確保技術対策会議

12月21日、当研究所において、県関係機関、野菜研究所から24名の参加を得て、台風被害対策の種いも確保技術対策会議が開催されました。野菜研究所からは前嶋研究管理員が切りいもを使った原原種の実際の栽培法を紹介し、鎌田栽培部長は切りいもの生育の特徴を、細田品種開発部長は深暗きょ施工した効果について紹介しました。



事例を説明する様子

緑肥作物を利用した生物くん蒸研修会

12月21日ながいもの会議後、当研究所において、JA全農あおもり、各農協、県関係機関から計36名の参加を得て、生物くん蒸研修会が開催されました。

当研究所からは加賀研究員がカラシナの試験事例を発表しました。



事例を説明する様子

新任普及指導員研修

11月の第3 4週の9日間、当研究所に、6月に引き続き、地域県民局から新任の普及指導員二人が専門技術向上研修にみえました。主に、ナガイモの収穫調査の現地研修を行いました。当研究所の研究員が、ナガイモをはじめとした野菜の品種、栽培法、貯蔵法、病害虫防除管理について解説し、実際に体を動かしての調査を行いました。

今後、お二人が農家指導の際に今回の研修が役立ってくれることを願っています。



網室の中での作業と調査を経験

試験研究成果発表会

2月17日、平成28年度野菜研究所研究成果発表会が野菜研究所大会議室で108名の参加を得、開催されました。

発表課題名

- 1 夏秋ギク「精の一世」の施肥量の違いによる調整重への影響 (農林総合研究所)
- 2 アルストロメリアの秋定植による収穫時期の移動と収益の向上 (農林総合研究所)
- 3 ナガイモの高支柱栽培における収量・品質
- 4 燃費削減とくぼみ症を軽減するニンニク間断乾燥技術と乾燥時の留意点
- 5 新規天敵アカメガシワクダアザミウマを活用した夏秋どりイチゴのアザミウマ類防除
これらとあわせて、イモグサレセンチュウ、品種育成、タマネギの取組を紹介しました。

今後も、発表内容をより充実させ、多くの方に満足いただけるものにしていきたいと思います。



ぎゅうぎゅう詰めの参加者の皆様、
申し訳ありませんでした。